

地域防災力の根本的強化のために

「川口市地域防災計画」の改定作業中。長年にわたって防災の指針となるものなので、十分に検討しながら策定作業が進められるべきものです。さらに重要なのは、計画を「絵にかいた餅」に終わらせないことです。そのためには、計画に示されている施策を実現するための仕組みづくりをしていくことであり、それこそが地域の防災力強化につながります。

1 浸水対策—台風第2号を受けて

大雨による浸水被害を抑止するために、川口市は、「雨水貯留施設や調節池の整備」などの取り組みを進めてきましたが、今年6月の台風第2号の際には少なからず被害が出てしまいました。内水氾濫の防止の雨には、こうした貯留施設を増やしていくことに加えて、補完的な対策の強化を求めました。

- ア 透水性舗装の利用拡大
- イ 側溝の管理の強化
- ウ 家庭等での一時貯水設備の普及拡大



建設中の並木元町雨水貯留施設

に過ごせるスペースを設けることを検討することを盛り込むことを提案しました。

また、障害がある方、要介護認定を受けている方などを受け入れる福祉避難所は、現状では、災害発生当初から開設するのではなく、一般の避難所から受け入れるとされています。しかし、現実には、福祉避難所へのニーズは、発災した瞬間に発生します。福祉避難所の開設時期について再検討することを求めました。

(2) 避難行動要支援者への支援について

令和3年5月の「災害対策基本法」の改正によって、高齢者や障害者など「自ら避難することが困難な避難行動要支援者」ごとに避難支援を定める「個別避難計画」の作成が市町村の努力義務となりました。個別避難計画では、要支援者ひとり一人に対して複数の支援者を当てることが想定されます。

実現のためには、多くの協力者を災害発生前に確保し、支援体制を組んでおく必要があります。そのためには、人材確保が急務です。そのために、川口市がすでに認定している防災リー

(3) 避難所での暑さ対策について

避難での居住場所としては「体育館などの広いスペースを活用する」（「避難所開設・運営の手引き」）ことが原則になっています。現在、中学校の体育館は空調機が整備されていますが、小学校の体育館には整備されていません。このため、気温が上がり大規模な災害で避難が長期になった場合、避難者の健康に大きな影響があることが心配されます。

体育館の空調機設置には1カ所あたり5,000～6,000万円かかるとされており、財政上困難を伴いますが、避難者の健康を考えると何らかの対策が必要です。

3 仮設住宅の建設体制の強化を

避難所生活が長くなると、健康にも影響が出てくるので、速やかな仮設住宅を設置が必要です。地域防災計画では、設置予定数を全壊家屋の30%としているので、川口市では約1,800戸必要になります。周辺自治体も被災するので、県内で一時に多数の建築が必要になります。

仮設住宅の建設は県の仕事になります。地域防災計画では、仮設住宅は災害発生後20日以内に着工することとなっています。建設が遅れると避難所での生活が長くなり、避難者の健康が心配されますが、県が充分に対応できないことも危惧されます。こうしたリスクを軽減するために、仮設住宅の一部を市独自に建設できる体制づくりの検討を求めました。

川口駅 中距離列車停車問題について

今年度、川口市は JR 東日本に委託して、中距離列車の川口駅停車に必要な費用の見込み額の積算を行っています。これまで300億円とも言われてきた費用がいったいいくらになるのかが明らかになります。これで、この事業の「費用対効果」を明らかにできる前提が整うはずですが、まだまだ課題が山積しています。

1 問われる情報公開への姿勢

これまで川口市が行ってきた調査の報告書の提供を受けたところ、多くの頁が真っ黒に塗りつぶされているものが多数ありました（写真参照）。このように情報が秘匿されてしまうと、中距離電車の停車が本当に必要なのか市民が判断することができません。



提供された「中距離電車の停車による経済効果等検討業務委託報告書」（令和元年度実施）

情報公開に対する市の基本的な姿勢が問われています。

不十分な調査研究

事業の費用対効果を検証するうえで、メリット・デメリットを実証的に明らかにすることが不可欠ですが、これまで長年停車に向けての調査・検討を進めてきたにもかかわらず、十分な調査が行われてきたとは言えません。例えば、中距離電車が停車により、東京方面への利便性が向上し、市内の買い物客が流出することも考えられます。この点での影響については、いまだに行われていません。また、京浜東北線の運行が停止したときの代替輸送手段として期待されていますが、中距離列車も同時に止まってしまうことについての情報は持っていないとのこと。抽象論だけで事業を進めることも問題ですとのこと。

最適な解決案を考えるために、代替案として埼玉高速鉄道の具体的な活用策を検討・提案していきます。徹底した情報開示を求めて、これからのまちづくりについて、市民的議論の形成をめざします。

ほんとうに大丈夫ですか 美術館建設計画

美術館の設置について賛否がある中で、今年度予算で実施設計が行われおり、来年度、建設工事が始まり令和7年には竣工というスケジュールで進められています。駐車場の上に建てることについて懸念がありますが、いまだに具体的な説明がされていません。

1 建物の安全性の説明が不十分

令和7年に竣工・開館というスケジュール優先のためか、川口駅東口でのマンションとの合築と3

いう時間がかかる手法は放棄され、市有地であるリリア横に建設することになったことは周知のことです。そのスケジュールに間に合わせるためか、既存の西口公共駐車場のの上に建設される計画となっています（写真参照）。